

防除情報(病害虫情報 号外 第7号)

令和5年11月2日
神奈川県農業技術センター

タバコナジラミの防除について

抑制トマトと抑制キュウリにおいて、タバコナジラミの発生が平年より多くなっています。本虫はウイルス病(トマト黄化葉巻病、トマト黄化病及びキュウリ退緑黄化病)を媒介します。特に生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなります。

本虫の発生を抑えるには、「施設内へ入れない」、「施設内で増やさない」、「施設から出さない」ことが重要です。生育初期の感染を抑えるため、育苗期～定植直後の防除を徹底しましょう。また、栽培が終了した施設では、施設を密閉し、他の施設への飛び込みを防ぎましょう。

● 発生状況等

(1) 抑制トマトにおいて、タバコナジラミの寄生葉率が平年より高い状況が9月以降続いています(図1)。また、10月のタバコナジラミの寄生葉率が、2009年に調査を始めて以来最も高くなっています(図2)。

(2) 抑制キュウリでも、10月のタバコナジラミの発生が平年より多くなっています(データ省略)。

(3) 気象庁が10月26日に発表した向こう1ヶ月の気象予報では、気温は平年より高いことから、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられます。

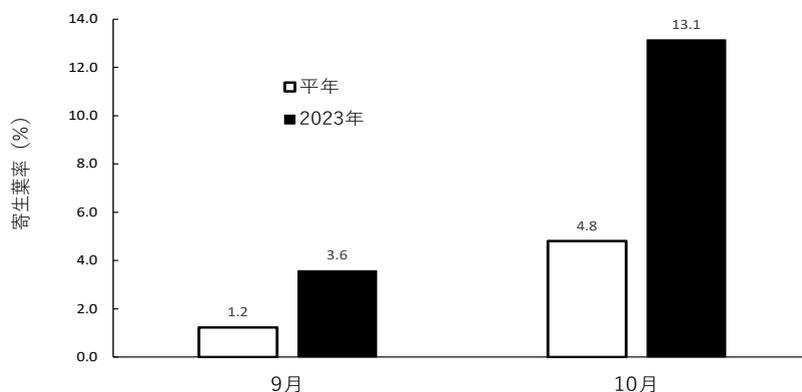


図1 抑制トマトにおけるタバコナジラミの寄生葉率

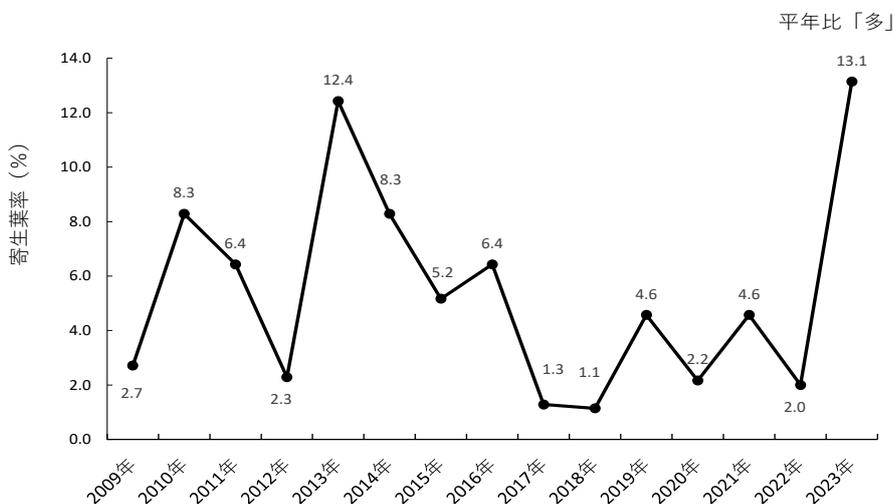


図2 抑制トマトにおける10月のタバコナジラミ寄生葉率 (2009～2023年)

● 防除対策

- (1) 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期からの防除徹底が重要です。なお、抵抗性を発達させないために、同じ系統の薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (2) 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努めましょう。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)は、より高い防虫効果が期待できます。
- (3) 黄色粘着板により本虫の発生活長を把握し、発生初期に薬剤防除を行いましょう。
- (4) 施設内外の雑草は害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底しましょう。
- (5) ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分しましょう。
- (6) 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぎましょう。

● 防除薬剤例(育苗期～定植直後)

育苗期～定植直後の防除薬剤例を表に示しました。なお、農薬使用の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守してください。

表 防除薬剤例(2023年10月31日現在の農薬登録情報に基づく)

促成トマト		促成キュウリ	
使用時期・使用方法	薬剤名	使用時期・使用方法	薬剤名
【育苗期:粒剤施用】	ベストガード粒剤 アルバリン 又は スタークル粒剤	【育苗期:粒剤施用】	ベストガード粒剤
【育苗期:散布】	ベストガード水溶剤 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 モベントフロアブル コルト顆粒水和剤 ベミデタッチ	【育苗期後半～定植時 :灌注】	モベントフロアブル ベリマークSC
【育苗期後半～定植時 :粒剤施用または灌注】	プリロツソ粒剤オメガ ベリマークSC	【定植時:粒剤施用】	アドマイヤー1粒剤
【定植時:粒剤施用】	モスピラン粒剤 ダントツ粒剤	【育苗期～定植後:散布】	アフファーム乳剤 ダントツ水溶剤

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。